

地元で開業 ～いずみ野皮ふ科から卒業して～


福田香織

 日本大通まま皮ふ科
(横浜市中区)

「山下公園」「中華街」「横浜スタジアム」……そんな横浜らしい場所に平成27年9月5日「日本大通まま皮ふ科」を開院いたしました。

私は生まれも育ちも伊勢佐木町という生粋のはまっ子です。実家はずっと飲食店をしております。伊勢佐木町界隈は、最近の都会ではすっかり希薄になってしまったご近所付き合いもまだまだ残る地域です。両親共に働いていたので、近所に育てられたと言っても過言ではなく、地元の方々に何らかの形で恩返しができればという思いが小さい頃からずっと私の中にありました。

地元の中学、高校に進学し、大学で群馬に行ったものの、卒後は横浜に戻り、医師として仕事をスタートしました。若い頃は毎日の仕事をこなすのが精一杯で、がむしゃらに日々を過ごしていました。2006年に体調を崩し、やむなく医局を退局することになってしまいました。そんな時に皮膚科医としてのスキルを落とさないためにと、以前より大学からの派遣でお世話になったことのあるいずみ野皮ふ科の増田智栄子先生から「来られるときにお手伝いに来ない？」とお声をかけていただきました。家でゴロゴロしながら、紙上の勉強をしたところで勤が鈍ってしまうと思っていたので、本当にありがたいお言葉でした。始めは週に1回の勤務から始まりましたが、気付けばすっかり居座ってしまい、常勤として働かせていただくまでになっていました。

増田先生には本当によくしていただき、地域密着のクリニックにはどんな疾患の患者がくるのか、治療の仕方、工夫、患者との接し方など、大学とはまた違う医療のあり方について教えていただきました。クリニックのスタッフや患者さん達ともずいぶん信頼関係を築くことができ、このままずっと増

田先生のもとで働かせていただいていたと思っていましたが、9年間の間に娘を授かり、私の生活が大きく変化しました。娘が小学校にあがる段階で、学校行事になるべく参加したい、学校から帰ってきたときに少しでも長い時間一緒にいてあげたいという気持ちが大きくなってきました。そんなとき、今まで私の心の片隅においやられていた「地元で貢献したい」という思いも蘇ってきたのです。

それならば、娘の学校の近く、私の地元で開業するのがいいのではと思ったのですが、お世話になりたいいずみ野皮ふ科をやめることができるのか本当に悩み、今後私達の生活はどうするのが一番いいのか、家族と何度も話し合いをしました。最終的に、娘の学校の近くに拠点を置き仕事をするのが一番との結論に達し、増田先生に正直な気持ちを話したところ、私がやめることで院長の負担がすごく大きくなるはずなのに、「先生の決めたことであれば応援するわ」と言ってもらい、いずみ野皮ふ科からの卒業が決まりました。それが、2015年の年末のことでした。

開業と言っても親族に医療関係者はだれもおりません。右も左もわからない状態でしたので、最近開業した先生方に相談し、まず指南役になってくれる業者を決め、業者を中心に土地探しからスタートです。希望の場所は始めから明確でしたが、立地、広さ、賃料の条件がすべて揃うところはなかなかないだろうと覚悟していましたが、蓋をあけてみると、賃料の大幅な値下げ交渉が上手くいき、一番始めに見に行ったところで即決定という運びになりました。

予想よりも予定が前倒しで、場所探し開始3ヶ月後にはテナント契約になり、こうなると後は開院までカウントダウンです。あまりにも急に話が進み、

8月のお盆まではフルタイムで仕事をしながら開院の準備をし、9月にオープンという、とてもタイトなスケジュールになってしまいました。内装のこと、銀行の融資実行、機器、器具の選定、スタッフ募集面接、役所関係の申請のこと……と初めて尽くしの毎日です。通常の業務が終わってから深夜まで打ち合わせという日々が続きました。準備は本当に大変でしたが、今この原稿をクリニックの自室で書いていると、自分の希望をほぼ具現化できた喜びですべての苦労も楽しかった思い出に感じられます。

9月5日、大安吉日そして一人娘の誕生日という日について「日本大通まみ皮膚科」を開院することができました。クリニック名は「女性らしさ」「やさしさ」「愛情」「癒し」「ぬくもり」という私がクリニックに望むことから連想する言葉を80近く候補として書き出し、その中から個性のあるものをと考えてつけました。

9月5日の開院から半年以上が経ちます。開院後、今のところ全く不備不便に感じることはありません。開院後平穩に診療ができているのは、なにより

もいずみ野皮膚科でクリニックのノウハウを教えていただいたおかげだと思っています。増田先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

まだまだ、患者様は多いとはいえませんが、少しずつ認知されてきている実感はあります。優秀で笑顔の絶えないスタッフに囲まれ、充実した毎日を送っています。

娘も学校からクリニックに帰ってくるようになり、娘との時間も多くなりました。私の子どもの時からの知り合いの方もクリニックに来てくれています。私の思い描いていた理想的な職場環境だと思っています。

まだ、当クリニックはスタートしたばかりです。これからどんなふうになっていくのかはわかりません。自分で築きあげた大事な城、大事な宝物。大切にクリニックを育てていきたいと思っています。

まだまだ若輩者ではありますが、これからますます頑張っていく所存です。

今後共よろしく願っています。

横須賀市に開業して1年半



宮沢めぐみ

みやざわ皮膚科
(横須賀市)

平成26年7月、横須賀市大津町に開業いたしました。当クリニックは京急線京急大津駅から徒歩7分、交通量の多い大津交差点すぐのビルの2階にあります。隣のビルには内科クリニックと薬局があります。駅からやや遠いので駐車場は近くに4台分あります。

私は横浜市立大学医学部卒業後、横浜市立大学大学院皮膚科に進学し、皮膚T細胞リンパ腫の研究で中嶋弘教授、長谷哲男助教授はじめ多くの先生方から大変丁寧な教えを受けました。大学院終了後、毛利忍部長のもと横浜市立市民病院に勤務しました。大学院時代は研究が主で、臨床能力がいまひとつであった私に、毛利先生は臨床、病理をしっかりと身につけさせてくださいました。その後、約2年間、米

国ニューヨーク市のロックフェラー大学皮膚科研究員として、クルーガー教授のもとで乾癬に対する生物学的製剤開発研究に携わりました。私が担当した生物学的製剤は、余り効果がないことが判明し残念な結果に終わったのですが、帰国後に同研究皮膚科でウステキヌマブが開発され、感慨深いものがありました。帰国後は横浜市立大学、横浜市立市民病院に勤務したのち、横須賀市立うわまち病院の一人医長となりました。

開業前に9年間勤務していた横須賀市立うわまち病院は、病床数400床余の病院です。マイペースで診療できましたが、やはり難しい症例や判断に迷う症例では仲間がいないと心細いこともありました。しかし規模が小さい病院であるだけに、診療科間の

垣根が低く、大学病院や基幹病院と異なり、電話で気楽に他科と相談して診療することができました。褥瘡回診では、すべての褥瘡の患者さんを、形成外科、WOCナース、栄養科と一緒に診察し、多方面から治療しました。下肢血管病変を扱うフットカンファランスでは形成外科、循環器科、心臓血管外科、リハビリテーション科とさまざまな症例を連携して診療することができ、またフットカンファランスのおかげで、足の褥瘡とのふれこみの患者さんの中にかなり多くの下肢虚血の存在が判明し、適切な治療をすることができました。ただ日ごろ診療していて、横須賀市は皮膚科専門医によるクリニックがまだ少なく、大変混んでおり、思うように逆紹介ができず困りました。次第に逆紹介したいけど希望されない患者さんがたまってしまい、患者さんを流す診療形態になってきてしまいました。

そこで自らが逆紹介の受け皿となるために、開業を考えるようになりました。とはいっても、クリニックの経営面や持病があるがゆえの体力面、自己研鑽のための勉強会や講演会出席がおろそかになってしまうのではないかと不安がありました。いろいろな先生方にご相談したところ、少ない日数、診療時間からスタートして、その後状況に応じて診療日数・診療時間を増やすのはどうかとのアドバイスを受けました。マイペースに少しずつであればと思い、ようやく開業にこぎつけることができました。

診療は週4日、午前10時から12時、午後3時から5時でスタートしました。横須賀市はテナント料が安いこと、従業員は全員パートで、診療時間が短ければ、給与も少なくすむこと、横須賀市立うわまち病院で診ていた患者さんがかなり多く受診してくれることで、少ない診療日数・診療時間で何とか

なっています。昼休みは、処置や小手術ができるように長めに取りました。近隣はお年寄りが多く、インターネット予約は無理と考え、昼休みの処置、手術以外の予約はとらず、受付順に診療しています。

診療で最も力を入れているのはスキンケア指導、軟膏の外用法の指導です。新患の患者さんでは皮膚の洗い方から、IFTUの外用法まで処置をしながらしっかり指導し、指導内容を忘れないようになるべく小冊子などの誌面を手渡して帰っていただいています。ただしお年寄りが多いせいか、指導してもあまり身につかず、私の自己満足的なところもあります。にきびの患者さんには、洗顔方法から化粧についてまできめ細かく指導しています。

平成26年12月からはエキシマライトを導入いたしました。白斑、乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎などで、外用のみで改善しない場合には重宝しています。

開業時に想定していなかったのは、巻き爪、陥入爪の多さです。早速3TO（VHO）の講習を受けに行き、3TOを行うようになりました。症状にあわせ爪クリップ、ナオルン人工爪、ガター法も適宜行っています。

開業して、今度は入院、精査のために患者さんを紹介する立場になりました。どんなときでも、快く患者さんを引き受けてくださる、横浜市立大学附属病院、横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、衣笠病院の先生方には大変感謝しつつ診療する日々を送っています。

今後も試行錯誤して、患者さんのニーズに応じた診療を提供したいと思います。先生方のご指導を賜れば幸いに存じます。よろしく願いいたします。

開業のご挨拶



眞鍋泰明

茅ヶ崎 はまかぜ皮膚科
(茅ヶ崎市)

2015年4月に茅ヶ崎市浜見平に「茅ヶ崎 はまかぜ皮膚科」を開院いたしました。浜見平はJR茅ヶ崎駅からは徒歩圏にはなく、バスを利用して10分ほどかかる茅ヶ崎市の西、平塚市との境界付近の地区です。湘南海岸、相模川に近い、自然豊かな閑静な住宅地で、50年ほど前の団地ブームの時代に一斉に施工された団地群が建ち並んでいます。現在、団地の建物の老朽化が進んでいるため、市が都市計画として順次建て替えている最中です。当院がある施設ももともとは古い団地があったところで、保育園、図書館、市役所出張所などと一緒に医療モールが併設されており、その一角で近隣の町おこしにご協力させていただき形で開業しました。

私は、徳島大学医学部を卒業後、小田原市立病院で初期研修を終え、東海大学医学部附属病院皮膚科に入局しました。小澤明前教授のもと、先輩の先生方から様々な皮膚疾患、common diseaseにいたるまで、手厚く指導していただきました。また、かねてから希望していた開業に関しても、医局全体でサポートしていただきました。現在も月に2～3回は大学の診療に参加させていただき機会を設けていただいております。現診療科長の馬淵智生先生、ならびに医局員の皆様に対しては感謝の言葉が尽きません。

大学で爪疾患専門外来を担当していたため、当院でも陥入爪に対して弾性ワイヤー、爪クリップ、ガター法などの治療をしています。その他、テープ法、靴指導、爪切り指導など、標準的な診療ではありますが、近隣の患者さんには喜んでいただいているようです。ただ、フェノール法など当院では施行が難

しい治療に関しては、大学に紹介しています。

その他、乾癬やアトピー性皮膚炎、尋常性白斑などに対してNB-UVBを導入しています。東海大学には乾癬の患者さんが多いため、週2回光線治療外来があり、照射器も全身型、局所型を含め6台あります。在籍中、光線療法を多く経験させていただいたため、照射量や通院間隔のコントロールに馴染みがあり、比較的スムーズに導入できました。

最近では、皮膚生検、小さい皮膚腫瘍の手術も行っています。それまでは周辺施設、大学病院に紹介させていただいていたのですが、患者さんの大部分が近隣の方であり、通院の負担を軽減するために、できる限り当院で行うようにしました。また、大学と違い、看護師がいませんので、採血、外用処置、包交も一人で行っています。患者さん一人一人にかかる時間が長くなり、余裕がなくなるときもありますが、患者さんとのコミュニケーションが取りやすくなる利点もあり、しばらくはこの形で続けようと思っています。もともと皮膚科を目指した理由の一つが、開業したあとも、問診、視診、触診、鑑別診断、検査、病理診断、確定診断、治療という流れを、一人で続けていける科であったためであり、原点に戻った気持ちで日々やりがいを感じています。

まだ開院して1年にも満たない当院ですが、地域で信頼されるかかりつけ医を目指して努力していく所存です。この度は執筆させていただき機会をいただき、誠にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

富士山が見えるこのまちで

熊澤智子

くまざわ皮フ科クリニック
(南足柄市)

平成24年11月、南足柄市に開業致しました。

平成10年、地元、佐賀医科大学（現佐賀大学）を卒業後、九州大学古江増隆教授の教室に入局しました。開業の2、3年前まで福岡で働いていた私は、(旅行ではない)“普通の日”に、車中から富士山が見える光景が信じられず、今でもきれいな富士山が見えると思わず手を合わせたくなってしまいます。子どもの就学を機に主人の地元である神奈川に転居してきました。開業の予定は全くなかったのですが、想い描く診療体制を実現したいと思うようになり、覚悟を決めました。

この地域には、しばらく皮膚科専門医による診療所がなかったこともあり、足柄上医師会の先生方がとても温かく歓迎してくださいました。この地域に開業して、本当に良かったと思います。

忙しさに私たちの成長が追い付かず、また、社会人として、事業主としてあまりに未熟であったために、スタッフの結束がうまく回れずに悩んでおりましたが、開業から3年経ち、理想的な診療体制に近づいてきました。休みもとれない状況で一生懸命ついてきてくれたスタッフにとっても感謝しています。

2月に、古江教授ご夫妻の還暦をお祝いする会が開かれました。若い教室員だけ100人が集いました



筆者（前列左より2番目）

が、育ててくださった先輩方や、一緒がんばった同僚や後輩と久しぶりに会い、とにかく必死だった当時を懐かしく思い出しました。恵まれた環境で育ててくださった教室に、私は何も恩返しができていると感じました。せめてこの地で、皮膚科医としての役割を真摯に果たしていきたいと思います。そしてその結果、私と家族が住むこの地域の方々の、皮膚の健康を守り、その生活がより豊かなものになることに、貢献できることを願います。

最後に、神奈川にゆかりがなかった私を支えてくださいました東海大学の先生方に心よりお礼申し上げます。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。